

(様式1)

令和5・6・7年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【中学校】

【学校名等】

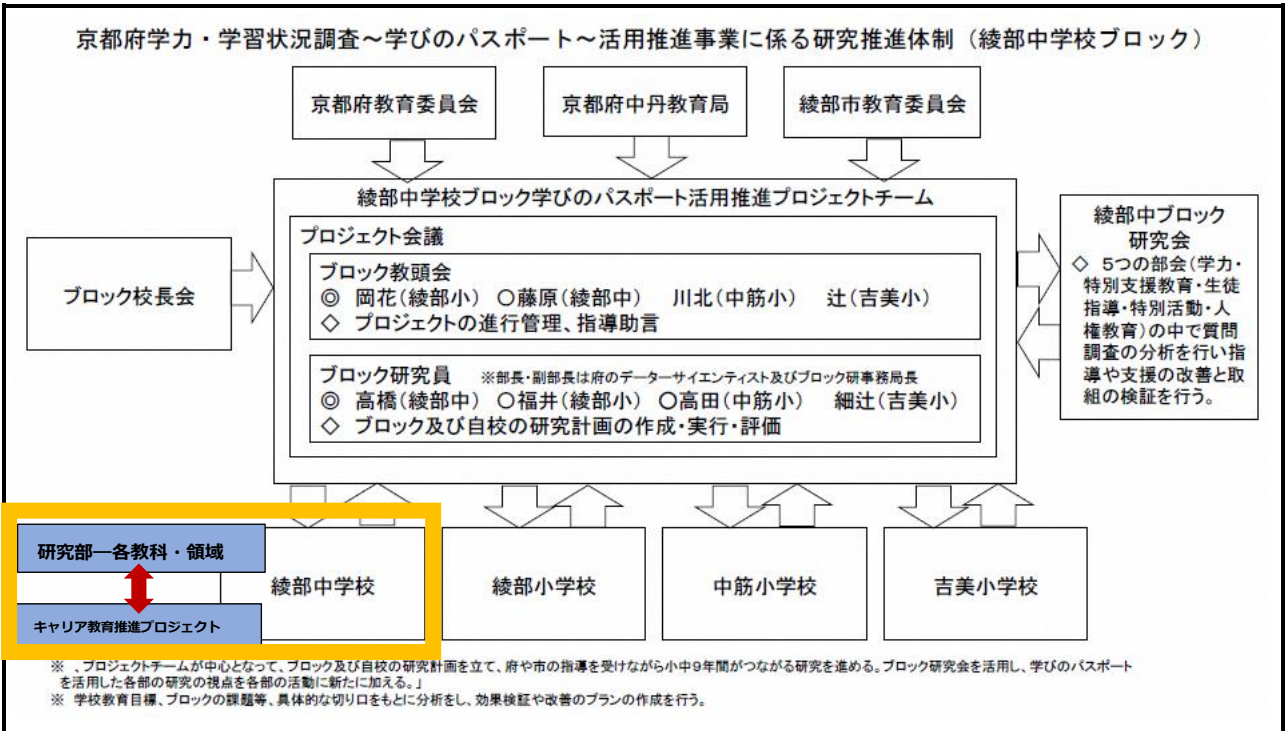
学校名	綾部市立綾部中学校						校長名	小林 治			
学年	1年	2年	3年				特別支援	生徒数	499名		
学級数	5	5	6				2				
事業担当教員名	高橋 友紀										
① 中学校区で 目指す 子ども像	ブロック教育目標：自立と貢献～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 子どもの育成～ ブロック目指す子ども像：夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 綾中ブロックの子 夢をもち (将来を見据え、主体的に学び表現する子) 【展望する力】 仲間とともに (豊かな心をもち、自他とともに大切にできる子) 【つながる力】 未来を切り拓く (心身ともに健康で、実践力と行動力のある子) 【挑戦する力】 綾中ブロックの子 (誇りと郷土愛をもち、地域とかかわる子) 【貢献する力】 <ul style="list-style-type: none">・認知能力、非認知能力、メタ認知をバランスよく伸ばしている。・自身の学習を自分で準備、実行、完了することのできる力と意思をもち、自律的な学びを実現することができる。・課題解決的に学び、課題に対して意欲をもって取り組むことができる。・自分の弱みを見せて、本音で語り合うことができる。・下級生のモデルとして自身の姿をふり返り、上級生をモデルとしてより良い生き方を考え、行動できる。・自分たちの学びや行動が身近な人や社会を変えることができるという自己有用感に裏付けられた自尊感情が育っている。・自己の理解を深め、夢や希望をもって、将来の生き方や生活を考え、自ら学習に向かうことができる。										
② 目指す 子ども像	校訓 自立と貢献 経営目標 「希望進路の実現(学力保障と自立支援)」 重点課題 信頼される学校づくり ～新しい時代に必要となる資質・能力を身に付けた生徒の育成～ 1 夢を持ち～キャリア教育の推進～ (将来を豊かに自己実現できるようその意欲や態度、能力を育成する) 2 仲間とともに～心の教育の充実・自律性と協調性の育成～ (仲間と繋がり、存在感・充実感のある学校生活、豊かな心や自律性と協調性の育成) 3 未来を切り拓く～学力の向上・自立と健やかな成長～ (学びに向かう力や活用する力等生きて働く力、自己管理能力の育成) 4 社会総がかりで～地域連携・協働の推進～ (生徒の健やかな育ちを支える環境(学校)づくり、一貫教育・校種間連携の推進) ◆綾部中学校で目指す子ども像：夢の実現に向けて、努力できる生徒										
③ 目指す 子ども像に 対する 現状と課題	令和5年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙回答結果 (7) 将来の夢や目標を持っていますか 当てはまらない・どちらかといえば、当てはまらない(34.9%) R4(28.9%) 令和5年度キャリア教育質問紙2年生 7月実施 ○あなたには将来の夢はありますか。 考えているが、まだ何もイメージできていない・将来のことを考えたことがない(26%) 令和4年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙回答結果 (11) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。 当てはまる・どちらかといえば、当てはまる(72.4%) 令和5年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙回答結果 (17) 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 1時間未満(45.6%) R4(50%) ※全国(33.9%) 令和5年度綾部市中学校生活アンケート(5月実施) <table border="1"><tr><td>学びのパスポート R5</td></tr><tr><td>3年 41.2% 2年 47.9% 1年 27.6%</td></tr></table> ○家庭学習について、次のどれですか。 1時間未満(58.7%) ※R4:39.2%、R3:37.3%									学びのパスポート R5	3年 41.2% 2年 47.9% 1年 27.6%
学びのパスポート R5											
3年 41.2% 2年 47.9% 1年 27.6%											
④ 目指す子ども像に達する ための仮 説	<ul style="list-style-type: none">・具体的な将来の展望や、目指す目標を自己決定すれば、その先に向かって自己調整しながら、学びを自分ごととして捉えるのではないかな。【生徒】・授業が楽しい、学びが自分ごとになれば、家庭学習の時間が伸びるのではないかな。【生徒】・教師の授業力が上がれば、生徒の学びが自分ごとになるのではないかな。【教師】										

【1 研究主題】

「主体的・協働的に課題解決を図る生徒の育成」

授業で勝負できる・学力を付ける授業力の向上を目指す

【2 研究組織体制】



【3 具体的な取組内容】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
モデル校打ち合わせ 校内研修会	学びのパスポート実施	校内授業研究会	授業評価アンケート 指定校ブロック打ち合わせ	・学びのパスポート返却 ・全国学調返却 ・校内研修会(結果分析と今後の授業改善について) ・学校改善プラン作成	仮説に基づき、授業改善を進める			指定校ブロック打ち合わせ(夏の交流)	教科別研修会	校内授業研究会	授業評価アンケート	校内研修会 指定校ブロック打ち合わせ(交流会に向けて)	年度末モデル校交流会 来年度計画づくり 指定校ブロック打ち合わせ(次年度に向けて)	授業評価アンケート

(取組内容)

- 「確かな学力（未来を切り拓く力）」の育成を目指した授業改善を進める。
 - 授業動画撮影を積極的に行い、自身の授業について客観的に分析する機会を設定し、授業力向上に向けた研修を充実させる。
- 目標と指導と評価の一体化を目指す。
 - パフォーマンス課題を設定し、生徒の思考力の育成を図る。
 - 単元構想やルーブリックを工夫し、生徒の学習意欲へと繋がる授業づくりを行う。
 - 授業アンケートを通して、教師の授業力が向上しているかどうかを検証する。例えば、「授業を通して、自分に力が付いたと実感できる」「教科に興味があった、好きになった」「分かるようになった」等の項目で、1学期より3学期に肯定的回答が増加するよう、授業研究、授業改善を進める。
- 授業研究会、教科部会を効果的に設定し、人材育成の視点で研修を行う。

【各部・領域との連携】

キャリア教育：自分の“好き”を未来につなげる一学びを自分ごとにする
 生き方と学びをつなげる

特別活動：非認知能力の育成
 誰かのために、が自分の生き方につながる体験
 プロジェクト活動への参加による成功体験

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
1~3	30	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	自己調整	
	31	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。		
	32	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている。		
	33	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。		

* 5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

<p>個に応じた具体的な指導・支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から「わからない」と言えない生徒に声をかける。 ・学習が難しくなると、学力が落ちていきそうな生徒にアプローチし、困り感を把握し、個別に対応する。 ・個別学習の実施 ・自己肯定感の低い生徒には、自信が付くように寄り添う。 ・メタ認知の低い生徒には、具体的に自己評価ができるようにする。「できている！」と安易に評価する生徒には、何がどのくらいできているかを自分で考えさせる。 ・いつも同じメンバーで過ごしている生徒には、意図的にいろいろな生徒と関われるようにする。 																											
<p>集団としての具体的な指導・支援方法</p> <p>□学校全体で生徒の学力向上の取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善（子どもたちがワクワクする、自信を付ける授業づくりをする） 振り返りの工夫（時期、タイミング、内容、フィードバックなど） 単元構想（指導と評価の一体化） 復習の時間を意図的に設ける。 ・生徒の思いや困り感を把握する。（アンケートや日々の声かけ） ・教室の中で声を出せていない生徒に目を配り、声をかけて分からないことを引き出す。また、座席やグルーピングの配慮をする。 ・学力に困り感を抱えている層には、放課後の個別学習を継続する。 ・答えだけでなく、答えが出るまでのプロセスを大切にする。 ・自主勉ノートを活用して、自分で勉強できる生徒を育てる。 ・学習方法を丁寧に指導する。 																											
<p>校内研修について(予定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学びのパスポート返却 ・校内研修会（結果分析と今後の授業改善について） ・学校改善プラン作成 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会（20日）国語科授業公開+2学期の授業改善について ・習熟度授業スタート ①指定校ブロック打ち合わせ（夏の交流） </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 教科別研修会・グループ別研修会 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 校内授業研究会 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>仮説に基づき、授業改善を進める →</p> </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケート </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修会 指定校ブロック打ち合わせ（交流会に向けて） </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 質問紙・学力調査 年度末モデル校交流会 来年度の計画づくり 指定校ブロック打ち合わせ（次年度に向けて） </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 総括と来年度に向けて 授業評価アンケート </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <p>仮説に基づき、授業改善を進める →</p> </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				8月	9月	10月	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのパスポート返却 ・校内研修会（結果分析と今後の授業改善について） ・学校改善プラン作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会（20日）国語科授業公開+2学期の授業改善について ・習熟度授業スタート ①指定校ブロック打ち合わせ（夏の交流） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科別研修会・グループ別研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研究会 	<p>仮説に基づき、授業改善を進める →</p>				12月	1月	2月	3月	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会 指定校ブロック打ち合わせ（交流会に向けて） 	<ul style="list-style-type: none"> 質問紙・学力調査 年度末モデル校交流会 来年度の計画づくり 指定校ブロック打ち合わせ（次年度に向けて） 	<ul style="list-style-type: none"> 総括と来年度に向けて 授業評価アンケート 	<p>仮説に基づき、授業改善を進める →</p>			
8月	9月	10月	11月																								
<ul style="list-style-type: none"> ・学びのパスポート返却 ・校内研修会（結果分析と今後の授業改善について） ・学校改善プラン作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会（20日）国語科授業公開+2学期の授業改善について ・習熟度授業スタート ①指定校ブロック打ち合わせ（夏の交流） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科別研修会・グループ別研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研究会 																								
<p>仮説に基づき、授業改善を進める →</p>																											
12月	1月	2月	3月																								
<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会 指定校ブロック打ち合わせ（交流会に向けて） 	<ul style="list-style-type: none"> 質問紙・学力調査 年度末モデル校交流会 来年度の計画づくり 指定校ブロック打ち合わせ（次年度に向けて） 	<ul style="list-style-type: none"> 総括と来年度に向けて 授業評価アンケート 																								
<p>仮説に基づき、授業改善を進める →</p>																											

【8 仮説の修正】

- ① 具体的な将来の展望や、目指す目標を自己決定すれば、その先に向かって自己調整しながら、学びを自分ごととして捉えるのではないか。【生徒】
- ② 授業が楽しい、学びが自分ごとになれば、家庭学習の時間が伸びるのではないか。【生徒】
- ③ 教師の授業力が上がれば、生徒の学びが自分ごとになるのではないか。【教師】

修正【追加】R6 へ向けて

- ④ 学校生活が充実したり、自己有用感が高まったりすれば、学力が向上するのではないか？
(そのために) キャリア教育の視点で、教員も生徒も“自分ごと”として学校づくりに関わる。

【9 具体的な取組内容の修正】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
モデル校打ち合わせ 校内研修会	学びのパスポート実施	校内授業研究会	授業評価アンケート 指定校ブロック打ち合わせ	・学びのパスポート返却 ・全国学調返却 ・校内研修会 ・校内研修会(結果分析と今後の授業改善について) ・学校改善プラン作成	指定校ブロック打ち合わせ (夏の交流)	教科別研修会	校内授業研究会	授業評価アンケート	校内研修会 指定校ブロック打ち合わせ (交流会に向けて)	年度末モデル校交流会 来年度計画づくり 指定校ブロック打ち合わせ (次年度に向けて)	授業評価アンケート

12月：学びのパスポート返却・ガイダンス 別添資料①

キャリア教育推進部会—夢を語る会—発足 来年度に向けた構想

1月：第2回キャリア教育推進部会 学校行事について(不定期開催)

「朝鑑賞」部分的にスタート

2月：学力検査(5教科で実施)・学びのパスポートアンケート調査

結果分析と次年度へ向けて

3月：授業評価アンケート、結果分析、1年間の総括

【10 生徒の変容(普段の様子から)】

- 自分からいろいろなことに(プロジェクト、ピアノ伴奏、指揮者、役員、学習等)チャレンジする生徒が増えた。⇒学校生活の充実につながっている。
- ポジティブな言葉を使う生徒が増えた。
- 自分や仲間の成長の分析を繰り返して、できることが増えたことを実感する経験を通して、授業の活動を大切にする生徒が増えた。
- 自分自身の学びの過程を振り返り、うまくいっていること、いっていないことを言語化し、次に頑張ることを具体的に自己選択・自己決定する生徒が増えた。授業で行う振り返りの内容が変わってきている。
- あいさつができる生徒が増えた。
- 教師と生徒の関係性がよくなっている。
- 授業で質問が増えている。分からないことを分からないと言えるようになってきている。
- ゴールを明確に示すことで、そのゴールに近づくためにどう行動すればいいか考えて学ぶ姿が見られるようになった。
- 分かる、できることが増えて、学習に対して自信をもてる生徒が増えている。

◆ 質問紙調査による変容

⇒ 自己調整に関する質問

	自分の考えた道筋を他の人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている
1年生	76.9%⇒76.9%	81.6%⇒67%(↓)	58.5%⇒40%(↓)	66.5%⇒58%(↓)
2年生	77%⇒64%(↓)	77.1%⇒69%(↓)	39.2%⇒45%	66.9%⇒63%(↓)
3年生	73.4%⇒66%(↓)	72.1%⇒80%	43.7%⇒42%(↓)	62.6%⇒71%

○ 自己調整については、まだまだ授業者、生徒との間に意識や理解度に差があり、実践に生かされていない、もしくは自己調整が生徒にとってよくわかっていない状況がある。引き続き次年度では、自己調整が浸透するように実践を続け、生徒にとっても自己調整がキーワードとなるように働きかけていく。

➡教科の学習が好きかどうかについて（5月➡2月）

	国語	数学	英語
1年生	41.5%➡53%	61.9%➡70%	38.1%➡57%
2年生	33.1%➡54%	45.3%➡53%	36.5%➡51%
3年生	46.8%➡48%	53.2%➡67%	40.5%➡60%

○どの学年も肯定的な回答が増加している。教員の授業改善が生徒の興味関心、好き嫌いにプラスに働いている。

➡自分自身のことについて（5月➡2月）

	自分にはよいところがある	いつも自分らしくいられる	将来の夢や目標をもっている
1年生	71.8%➡80%	71.8%➡80%	71.1%➡76%
2年生	73%➡79%	70.9%➡76%	64.8%➡77%
3年生	70.2%➡84%	68.4%➡77%	54.4%➡81%

➡学校生活に関する質問

	普段の生活の中で、自分の考えを自由に話すことができる	普段の生活の中で、自分とみなと違う意見や本当の気持ちを言っても、だれからも責められたり傷つけられたりする心配はない	普段の生活の中で、ミスや失敗をしても、自分の話を聞いてもらえる	普段の生活の中で、起こったトラブルについて、話し合える雰囲気がある
1年生	78.3%➡64%(↓)	69.8%➡75%	84.3%➡88%	80.9%➡77%(↓)
2年生	79%➡82%	73%➡82%	86.5%➡90%	81%➡75%(↓)
3年生	82.9%➡87%	81%➡82%	89.2%➡89%(↓)	83.5%➡81%(↓)

○綾部中学校が生徒にとって一定、落ち着いて安心して学ぶことができる場になっている。その結果、自分のことを否定せず、未来への明るい展望をもつことにもつながっている。ただ、否定的に回答している生徒の様子に寄り添うことや思いを大切にしていく必要がある。

➡その他（5月➡2月）

	今住んでいる地域について関心がある	しなければならないことの順番を決めて取り組んでいる。	はじめに目標やゴールを決めてから計画を立てるほうだ
1年生	45.4%➡57%	73%➡73%	62.6%➡58%(↓)
2年生	27.8%➡49%	77%➡76%(↓)	58.1%➡63%
3年生	39.8%➡49%	68.4%➡77%	69%➡68%(↓)

○ゴール設定、そこに向かう道筋づくりについてはイメージできている生徒が増えてきている。教科指導だけではなく、探究活動を通してより見通しをもって、自己調整しながらゴールを迎える生徒の育成を目指す。

➡その他（2月）

	学級は安心して自分を出せたり、落ち着いて学習したりできる雰囲気がある	この1年間で、自分は成長したと思う	力がつく学習方法がわかっている	自分の未来にワクワクする
1年生	86%	90%	68%	76%
2年生	80%	88%	59%	77%
3年生	72%	91%	70%	80%

○おおむね高い数字で前向きな回答を得られた。しかし、その反面、苦しい思いをしている、悶々としている生徒に寄り添える教員集団でありたい。

◆学力状況について（現在学力テストを実施中）令和5年3月4日現在

◆教科アンケートについて（現在アンケートを実施中）

◆自己調整の実践（別添資料②）

(校内研修会の感想より—1年間の学びを振り返って—)

- 教育目標の達成に向け、学びのパスポートを活用した教職員の組織的な取組を実施することができた。それにより、授業力や学校経営力の向上につながっていると感じる。研究部のダイナミックな動きがこうした改革につながっていると強く感じる。
- 「自己調整」の力をつけることを意識することができました。授業で分かるようになったこと、うまくできるようになったことを生徒が実感できるような展開を考え、実践していきたいと思います。
- 自分はまだ教える授業から抜け出せていないので、生徒が主語ということをもっと考え、生徒の今後につながる授業をしていく。
- 年間を通して、さらに主体が子どもへと動きました。よい授業とは、子どもがもっと知りたい、できるようになりたいと思うことだと改めて思いました。
- 授業は見せる。自分で見る。これまでの考えから次の視点をもつ。授業の良し悪しは生徒の姿、発言に表れる。
- どれだけこちら側が意図をもって授業をできるかが大切だと学びました。やっぱり生徒ファーストだと実感しました。
- 自分自身の授業動画を取って、生徒の様子や教師の立ち振る舞いから授業改善につなげることができた。昨年よりも新しいことに挑戦できたのでよかったです。
- 自分の授業を見つめ直していくことが大切。日々の授業スタイルは生徒の実態に合わせてモデルチェンジし、生徒がワクワクする授業をつくっていきたい。
- 自己調整ができるように導くことの難しさを実感しました。学校に来る意味、目指すものはそれぞれ違うけど、生きる力が与えられる、人生楽しいと思ってもらえる指導を今後も磨き続けていきたいです。

【11 2年次の研究構想】

(仮説)

◆夢の実現に向けて、努力できる生徒

- ①具体的な将来の展望や、目指す目標を自己決定すれば、その先に向かって自己調整しながら、学びを自分ごととして捉えることができる。【生徒】
- ②授業が楽しい、学びが自分ごとになれば、家庭学習の時間が伸びる。【生徒】
- ③教師の授業力が上がれば、生徒の学びが自分ごとになる。【教師】

(加筆)

- ④学校生活が充実したり、自己有用感が高まったりすれば、学力が向上するのではないかと
➡キャリア教育の視点で、教員も生徒も“自分ごと”として学校づくりに関わる。

令和5年度の計画の流れと仮説を踏まえ、令和6年度では『生徒を主語にした学校づくり』を目指し、授業改善を進めることはもちろん、「朝活動の充実—朝鑑賞の実施—」「総合的な学習の時間の大幅改定—ホンモノの探究活動—」「行事を生徒主体に改革」「授業改善」の4本柱を立てる。

- ①引き続き教師の授業力向上を目指した授業改善
- ②表現力や思考力を育てる“朝鑑賞”（美術作品を使った表現活動）、“アウトプットのためのプレゼンテーション活動”等の実施
- ③総合の時間を活用した探究活動
- ④学校行事改革

を中心に、生徒が安心して通える学校づくりを進める。

【各部・領域との連携】

キャリア教育：自分の“好き”を未来につなげる—学びを自分ごとにする生き方と学びをつなげる。

特別活動：非認知能力の育成—誰かのために、が自分の生き方につながる体験

（プロジェクト活動への参加による成功体験）等の生徒が主体になって動く活動を実施。

(R7/11月学校公開予定)

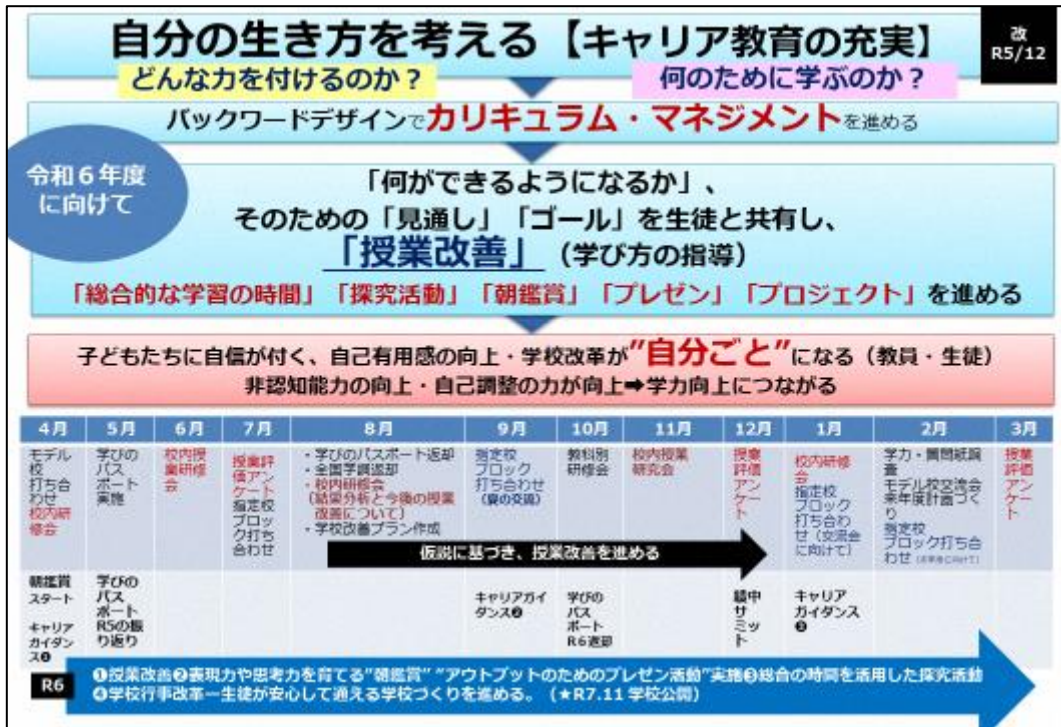
※キャリア教育について：別添資料③

◆ブロック研究会改革

授業研究会+自己調整をテーマとした分科会の実施（予定）

(流れ)

- 1. 学びのパスポートのデータを活用+自己調整を意識した授業づくり・公開授業
- 2. 事後研究会
- 3. 自己調整をテーマに有志による分科会
興味のある分科会に参加



令和7年度秋までのロードマップ

